

調査研究代表者氏名 : 大 田 健

評価コメント

- ・患者や一般医療機関で使いやすい指導として、PEFやコントロール評価を中心に、FeNO、フローボリューム曲線との関係を検証した実用的な研究である。JGLの完全コントロール状態を目指すことの重要性を明らかにしたことは意義がある。
- ・成人喘息患者の保健指導を個別にきめ細かく行えるような知見が、新たに積み重ねられたことを評価する。
- ・ぜん息テキストの改訂を行っているが、この研究班の成果がどの様に生かされているかをもう少し明らかにして欲しかった。今後この研究班で得た成果を入れたテキストの改訂をして欲しい。
- ・成人喘息患者の保健指導を個別にきめ細かく行えるような知見が、新たに積み重ねられたことを評価する。
- ・2011改訂ぜんそくテキストを使用してJGL2009評価票に基づいた改善が達成されることを示したのは、このテキストの有用性を担保した。安定期喘息患者においてPEFの週内変動率の増大を%FEV、FeNOの組み合わせで鋭敏に層別化できることを明らかにしたことは今後の喘息の保健指導に有用と思われる。
- ・肺機能の変動を予測する因子として、%FEV1と呼気NOを組み合わせると、非常に高い予測率が得られるということは興味がある。もし再現性があるならばその有用性は高く、喘息の経過を予測することにも応用できるのではないだろうか。
- ・TEXTの改訂がなされ、喘息のコントロールが着実に改善していることが判明している。
- ・FeNO>40ppb、ACT $\geq$ 20がカットオフ値として確立された。